

平成21年4月13日

財団法人 静岡経済研究所

理事長 古知弘行

〒420-0853 静岡市葵区追手町1-13  
アゴラ静岡 5階

TEL 054-250-8750

FAX 054-250-8770

# S E R I NEWS RELEASE

平成21年4～6月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

## 内外の深刻な需要減退から 県内の業界景気はさらに悪化

当所が実施した県内主要産業（20業種）の四半期見通し調査によると、現在（1～3月期）の業況は、『好調』や『順調』、『普通』の業種はなく、『低調』が12業種、『不調』が8業種に上った。世界同時不況による内外の需要減退の影響により、県内産業は底割れに近い状況にある。

また、今後（4～6月期）については、20業種中6業種が『やや下降』、13業種が『横ばい』を見込んでいる。輸出の減少と国内消費の収縮により、県内の業界景気は総じて悪化しており、今後も県内のあらゆる産業で、苦境をしのぐ厳しい状況が続く見通し。

### 県内主要産業の動向

#### （1）現在の業況について

県内主要産業の現在（1～3月期）の業況は、『好調』、『順調』、『普通』の業種はなく、『低調』が12業種、『不調』が8業種となり、非常に厳しい状況が浮き彫りとなった。前回『普通』であった家庭紙、産業用紙、情報サービスが、国内消費の不振から『低調』へ1ランク後退した。また、外需の減退による輸出の大幅な減少と、それに伴う企業投資や国内の個人消費の落ち込みの影響を大きく受けて、工作機械、民生用電器部品、自動車部品、二輪車部品、大型小売店、自動車販売、外食、リースの8業種が『低調』から『不調』へさらに後退したことから、20業種すべてが『低調』あるいは『不調』となり、県内産業は底割れに近い状況にある。

## (2) 今後の見通しについて

4～6月期の見通しについては、20業種中6業種が『やや下降』、13業種が『横ばい』を見込んでいる。業種別にみると、自動車部品、二輪車部品、工作機械では、これまで在庫調整を進めてきたものの、実需の低迷から減産をさらに続けなければならず、出荷は前年比で2桁のマイナスを見込んでいる。また、企業の投資意欲の減退を受けて情報サービス、リースなども不振が続き、さらに、消費者の節約志向の強まりから、自動車販売、大型小売店、外食なども販売額の減少を予想している。ただし、業況の『やや下降』を見込む業種は前回調査の15業種から大きく減少して『横ばい』が増加しており、『やや上昇』が1業種（民生用電器部品）となるなど、一部の業種では下げ止まりの気配も感じられる。なお、半期調査業種では、繊維、製材とも、低価格化の進展や国内消費の不振、海外製品の攻勢などにより、低迷が続く見通し。

## (3) 需給バランス、在庫水準、製品価格動向について

在庫水準は、工作機械以外は『適正』だが、需給バランスは、『供給超過』とみる業種が前回調査より1業種増えて15業種となり、需要は引き続き弱含みの状況にある。また、製品価格は、『下降』を見込む業種が前回調査の2業種から6業種に増加した。

輸出の減少と国内消費の収縮により、県内の業界景気は総じて悪化しており、あらゆる産業で苦境をしのいで生き残るための厳しい状況が続く。

### 静岡県内産業の四半期ごとの業況推移

年次 四半期	平成18年			平成19年			平成20年			平成21年		
	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～
対象月(は調査月)	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～
現在の業況 (業種数)	好調 ☀	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	順調 ○	2	2	2	1	1	1	1	2	2	0	0
	普通 🌙	7	7	9	10	11	11	9	8	8	7	3
	低調 ☁	11	11	9	9	8	8	10	11	10	11	17
	不調 ☔	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
今後の見通し (業種数)	上昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	横ばい →	21	20	21	21	22	22	22	21	16	18	5
	やや下降 ↘	1	0	0	1	0	0	0	0	4	2	15
	下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
の業況	全業種の平均階級値	2.59	2.59	2.68	2.64	2.68	2.68	2.59	2.55	2.60	2.55	2.15
	好調: 5											
	順調: 4											
	普通: 3											
	低調: 2											
不調: 1												

注1) 調査は、毎年3、6、9、12月に実施。現在の業況とは、調査時点（3月調査なら1～3月期）における業況、今後の見通しとは、調査時点における翌期（3月調査なら4～6月期）の見通しを示す

注2) 平成20年（4～6月）時点で調査対象業種を変更しており、それ以前と以降の数値に連続性はない

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値

## 平成21年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気の現況	業界景気の見通し	静岡県内主要産業の見通し											
			生産量 4～6月期の 前期比伸び率	出荷額 4～6月期の 前期比伸び率	生産量 前年同期比 率	出荷額 前年同期比 率	操業 度	需給 バランス	製品在庫水 準	原材料価格の動 向 (前1～3月期対比)	製品価格の動 向 (前1～3月期対比)	資金繰り	受注残 (カ月)	
製茶	●								供給超過	適正			普通	
食品・飲料	●								均衡	適正			普通	0.5～1.0
家庭紙	●								均衡	適正			普通	0.1～1.0
産業用紙	●								供給超過	適正			普通	0.5～1.0
工作機械	///				↘		↘		供給超過	過多			普通	1.0～3.0
民生用電器部品	///								均衡	適正			普通	0.3～1.5
自動車部品	///				↘		↘	◎	供給超過	適正			普通	0.1～3.0
二輪車部品	///	↘	↘		↘		↘	◎	供給超過	適正			普通	0.5～1.0
建設	●								供給超過	適正			普通	3.8～6.0
住宅	●								供給超過	適正			普通	1.0～3.0
大型小売店	///								供給超過	適正			普通	
食品スーパー	●								供給超過	適正			普通	
自動車販売	///								均衡	適正			普通	
家電量販店	●								供給超過	適正			普通	
運輸・倉庫	●								供給超過				普通	
情報サービス	●								供給超過				普通	
外食	///								供給超過				普通	
観光・レジャー	●								供給超過				逼迫	
リース	///												普通	
人材派遣	●								供給超過				普通	
繊維	●								供給超過	過多			普通	0.5～1.0
製材	///								供給超過	適正			普通	

「繊維」「製材」は半期調査で、4～9月期の見通し。生産量などの前期比伸び率は、前10～3月期に対する4～9月期の伸び率。

### 表の見方と注意

業界の現況	業界景気の見通し	操業度	需給バランス	製品在庫水準	生産量・出荷額の伸び率 原材料・製品価格の動向	資金繰り
好調 ○	上昇 ↗	100～90%	非常に需要超過	非常に過少	非常に増加・上昇 (10%以上) ↗	非常に余裕
順調 ○	やや上昇	89～80%	需要超過	過少	増加・上昇 (3～9%)	余裕
普通 ●	横ばい	79～70%	均衡	適正	横ばい (2～2%)	普通
低調 ●	やや下降	69～60%	供給超過	過多	減少・下降 (3～9%)	逼迫
不調 ///	下降 ↘	59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に減少・下降 (10%以上) ↘	非常に逼迫

(注) 「業界景気の見通し」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したものの、「繊維」「製材」は半期調査で、10～3月期の現状と4～9月期の見通し。前期比などもすべて半期ベース。調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。  
調査時点...平成21年3月中旬。  
調査対象企業...県内主要20業種(179社)+半期調査2業種(10社)の合計189社。






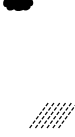
## 主要業種の現況と4～6月期の景況見通し

業種	業界天気	業界景気の現況と今後の見通し
製 茶	●  ●●	<p>(現況)・経済環境の悪化で贈答需要が減退、また、家庭用は前年とそんな色ない荷動きとなったようだが、低価格志向の強まりから上級茶の売れ行きが鈍く、製茶問屋の売上は前年水準を下回ったとみられる。</p> <p>(見通し)・凍霜害がなければ良好な作柄が期待されるが、製茶問屋の繰越在庫は例年以上との声が聞かれ、仕入姿勢はより慎重になるとみられるため、荒茶価格は軟調推移の見通し。販売面では、前年同期の緑茶への家計支出が落ち込んでおり、新茶需要の減退懸念が不安材料。</p>
食 品 ・ 飲 料	●  ●●	<p>(現況)・ツナ缶の生産は、販売促進などが奏効し前年比で微減にとどまった。飲料缶は、暖かい日が多くレジャーでの消費が好調で前年を上回った模様。その他の食品は実体経済の悪化などで生産は伸び悩んだ。</p> <p>(見通し)・食品の生産量は、需要低迷が続くとみられることから、全体的に前年を下回って推移する見通し。一方で、4月に予定されている輸入小麦価格の引下げに対する各社の動きが注目される。飲料缶は、高速道路の料金値下げによるレジャー需要の伸びに期待がかかる。</p>
家 庭 紙	●  ●●	<p>(現況)・県内再生紙物の生産量は前年並みを確保した。卸値は、総体では昨年末の価格水準を維持したものの、量販店などからの値下げ要請の強まりで、一部に引下げを実施したところも出ている模様。</p> <p>(見通し)・需要は底堅く、生産量は前年並みで推移する見通し。4～6月には燃料価格が引き下げられるほか、古紙価格についても、もう一段の価格引下げの可能性があることから、流通サイドからの要請を受け、県内再生紙物も値下げを実施する可能性がある。</p>
産 業 用 紙	●  ////	<p>(現況)・1～3月は不需要期であることに加え、景況の悪化により需要が急速に減退したことから、産業用紙の生産量は前年を1～2割下回って推移した。卸値については、年末の価格水準を維持している。</p> <p>(見通し)・景気的好転が見込めないことから、生産量は前年を下回って推移する見込み。古紙価格の急落と需要の減退を受け、大手段ボールメーカーが4月の値下げを表明しており、商品価格引下げの動きは、4～6月中に産業用紙全般に広まるとみられる。</p>
工 作 機 械	////  ////	<p>(現況)・国内・海外とも需要の大幅な減少により、全国および県内の受注額は、前年実績を70～80%程度下回って推移した模様。受注額・件数とも最低水準に落ち込んでいる。</p> <p>(見通し)・主要先である自動車業界向けが依然として低調なうえに、電機業界向けも不振であるなど受注のけん引役がなく、受注額は前年から半減する可能性が高い。海外向けも需要回復の兆しがない中、納期延期要請などもあり、受注・収益面での厳しさが続く見込み。</p>






○好調   ○順調   ●普通   ●●低調   ////不調   業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期


業種	業界天気	業界景気の現況と今後の見通し
民生用電器部品	//// ●●	<p>(現況)・これまで底堅かったエアコン、冷蔵庫の生産が、足下の需要減少を受けて在庫調整に入り、前年を1割程度下回った。携帯電話も、冬商戦の不調で積み上がった在庫調整のため、大幅減産となった。</p> <p>(見通し)・エアコンと冷蔵庫は、在庫調整が短期的に終息する見通しで、生産は回復に向かうとみられるが、部品メーカーの受注単価は下落傾向にある。携帯電話は、実需の動きが不透明なもの、新モデルの受注が集中するため、前年並みの生産台数を確保する見通し。</p>
自動車部品	//// ////	<p>(現況)・自動車の国内生産台数は、国内外の需要縮小を受けて前年を大幅に下回った。県内部品メーカーの出荷額は前年比約4割の減少となり、稼働率を落とすことで完成車メーカーの減産に対応した。</p> <p>(見通し)・完成車メーカーの在庫調整が進む中、一部メーカーでは下げ止まり感もみられるが、前年対比では大幅なマイナスは避けられない見通し。県内部品メーカーは、受注減少下で利益を捻出するために、固定費削減への取組みが喫緊の課題となっている。</p>
二輪車部品	//// ////	<p>(現況)・全国の完成車生産台数は、前年を大きく割り込んだ。主力の欧米市場、国内市場とも低迷しており、完成車メーカーは2～3月に一時操業を休止。部品メーカーの受注量は前年比3～5割減。</p> <p>(見通し)・全国の完成車生産台数は、前年を下回る見通し。完成車メーカーでは、流通在庫の適正化にメドがついてきた模様だが、実需の低迷を受けて減産を続けるとみられる。部品メーカーの受注量も、前年を大幅に下回るとみられ、収益環境が一段と悪化する懸念がある。</p>
建設	●● ●●●	<p>(現況)・公共工事は大型案件に乏しく、契約高、件数ともに前年実績を下回る水準で推移した。民間建築工事は、1月に大型商業施設が着工されたこともあり、金額ベースで前年並みを確保した。</p> <p>(見通し)・公共工事は、景気対策として年度内事業の前倒し発注を予定している市町もあり、契約高は前年をやや上回って推移する見通し。民間建築工事は、景気の先行き不安などから企業の設備投資意欲が落ち込んでおり、前年を下回って推移する見通し。</p>
住宅	●● ●●●	<p>(現況)・新設住宅着工戸数は、前年実績をやや下回って推移した。1月は、既契約物件の着工もあって前年を上回ったが、景気悪化により消費者マインドは落ち込んでおり、2月以降は前年を下回った模様。</p> <p>(見通し)・新設住宅着工戸数は、前年を下回って推移する見通し。景気低迷に伴う雇用や所得環境の悪化により、住宅取得のタイミングが判断しにくい状況にあるが、最大規模で実施される住宅ローン減税や、低水準で推移する住宅ローン金利による下支えに期待がかかる。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 ////不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	業界景気の現況と今後の見通し
大型小売店		<p>(現況)・百貨店は、消費マインドの低迷が一段と顕著となり、売上高は前年を1割程度下回った。スーパーも、食料品などの生活必需品以外の買い控え傾向が強まり、既存店売上高は、前年割れとなった模様。</p> <p>(見通し)・百貨店は、消費マインドの改善が見込み難く、各店が強化するイベントの効果も限定的とみられ、売上高は前年を下回る見通し。スーパーは、商品値下げにより集客を図るものの、客単価が減少傾向にあるため、既存店売上高が前年水準を上回るのは難しそう。</p>
食品スーパー		<p>(現況)・県内主要店舗の既存店売上高は、2月が閏年で営業日が昨年より1日少なかったこともあり、前年を下回った模様。不況の中にあっても食料品消費は底堅いが、足下では買上点数の減少傾向がみられる。</p> <p>(見通し)・県内主要店舗の既存店売上高は、前年並みで推移する見通し。ただし、消費者の節約志向は強く、買上点数の減少を食い止めるために、各店とも一段の商品値下げを迫られる。また、地場大手食品スーパーの新規出店意欲は依然として旺盛であり、競合激化が進む。</p>
自動車販売		<p>(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年比で21.3%減少した。普通乗用車は38.2%、小型乗用車は21.9%、軽乗用車は8.7%と、米欧を中心とする世界同時不況の中、減少幅はさらに拡大している。</p> <p>(見通し)・自動車税制が改正されるものの、世界経済の低迷が続く中では消費者の購買意欲は上がり、県内の乗用車販売台数は前年割れの見通し。普通乗用車と小型乗用車は、相次ぐハイブリッド車投入に期待がかかるが、引き続き前年を下回り、軽乗用車も前年割れの模様。</p>
家電量販店		<p>(現況)・地デジ対応のテレビ、レコーダー需要が回復し、販売台数は前年を上回る水準で推移した。デジカメ、ビデオカメラも春の卒業入学需要により復調するも、販売競争激化で総じて単価は下落した。</p> <p>(見通し)・地上デジタル波全面移行に向け、薄型テレビの需要は増加基調にあるものの単価は低下しており、ノートパソコンも5万円以下の低価格帯が中心となる。定額給付金の支給が家電需要の喚起につながることを期待するが、全体の販売額は前年並みを維持できるか微妙。</p>
運輸・倉庫		<p>(現況)・トラック輸送量は、自動車や二輪車に加え、紙・パルプ関連も落ち込み、前年を1割程度下回った。普通倉庫の入出庫量は、主力の電気機械や紙・パルプが低迷し、前年を1~2割下回った模様。</p> <p>(見通し)・トラック輸送量は、製造業で生産調整や減産が相次ぐことから、前年を割り込んで推移する見通し。普通倉庫では、荷動きが鈍る中で一時的に保管残高が増加するものの、在庫調整後は減少が懸念される。</p>
情報サービス		<p>(現況)・全国の情報サービス業の売上高は、官公庁の案件が増加したものの、パッケージソフトの減少などから前年をやや下回ったとみられる。県内の中小事業者は、製造業や首都圏からの案件が減少した模様。</p> <p>(見通し)・輸送機器をはじめ製造業からの新規案件が減少し、他の業種でも更新時期にある案件の先延ばしなどが発生しており、受注量は急減する見通し。また、大手に人材を派遣して常駐開発してきた案件も、新年度分は契約が打ち切られるなど、厳しい見通しとなっている。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 // 不調 業界天気は上段が1~3月期、下段が4~6月期

業種	業界天気	業界景気の現況と今後の見通し
外食	 	<p>(現況)・外食産業の売上高は、前年を下回った模様。景気後退が鮮明になったことで、昼夜を問わず外食を控える傾向が強まり、来店客数の減少傾向に歯止めがかからなかった。</p> <p>(見通し)・定額給付金に期待が高まるが、春闘では定期昇給を一時凍結する企業があるなど収入減が危惧されるため、今後も外食は敬遠されるとみられ、前年を下回りそう。ただし、高速道路料金の引下げで観光地の飲食店は売上の増加が期待できそう。</p>
観光・レジャー	 	<p>(現況)・県内ホテル・旅館の総売上高は、前年をやや下回った模様。景気後退に加えて、暖冬の影響で花見期間が短くなったことや、避寒目的の旅行が分散したことも一因と考えられる。</p> <p>(見通し)・県内ホテル・旅館の売上高は、前年水準を確保できる見通し。景気後退はマイナス材料だが、定額給付金に対応した旅行商品がプラスに作用しそう。関東周辺では、「開国博 Y150」の神奈川県やNHK大河ドラマの新潟県が攻勢を強めており、競争は激化しそう。</p>
リース	 	<p>(現況)・これまで落ち込み幅の小さかった輸送用機器や一般機械関連でも設備投資案件が急減したことから、県内のリース件数・契約高は、前年実績を10～15%程度下回って推移した。</p> <p>(見通し)・設備投資に回復の兆しがみられないことから、リース件数・契約高ともに前年実績を10～15%程度下回って推移する見通し。案件を巡る競争も激化しており、リース料率を引き下げのケースも増えてくる可能性が高く、収益面でも厳しさが増しそう。</p>
人材派遣	 	<p>(現況)・製造業務の派遣労働者に対する派遣止めが進行し、また、事務系の派遣も、4月の新卒社員入社までを補う年度末の需要が低迷したことにより、静岡県内の実働派遣労働者数は前年を下回った模様。</p> <p>(見通し)・県内の実働派遣労働者数は前年を下回る見通し。2009年問題に伴い製造業務の派遣が請負などへ切り替えられ、事務系の派遣も年度替わりの契約更新が減少する見通し。また、日雇い派遣業務が原則禁止に向かう中、短期の派遣を控える動きが広がりそう。</p>
繊維半期ベース	 	<p>(現況)・一般生地では定番品が低迷し、受注量は前年を1割程度下回った。10～3月期別珍・コール天は、前年比半減という深刻な落込みは収まったが、依然として荷動きが鈍く、受注量は前年を下回って推移した。</p> <p>(見通し)・一般生地では、低価格化の進展を受けて廉価な海外製品の流入が続くとみられ、受注量は前年を割り込む水準で推移する見込み。別珍・コール天については、トレンドを形成するようなリード商品が見当たらず、受注量は一段と落ち込む見通し。</p>
製材半期ベース	 	<p>(現況)・全国の住宅着工戸数は景気の悪化から再び減少しており、製材品の荷動きも停滞している。製品市況も、製品種類によっては減産の強化などで底堅い値動きのものもみられるが、全体では芳しくない。</p> <p>(見通し)・足元で分譲住宅の在庫調整が進んでいるが、住宅着工戸数が回復して製材品の荷動きが本格的に好転するまでには時間がかかる見込みで、当面は減産体制を維持せざるをえないとみられる。このため、製品市況も国産材、米材共に弱含みで推移すると予想される。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期 (ただし、繊維、製材の業界天気は上段が10～3月期、下段が4～9月期)

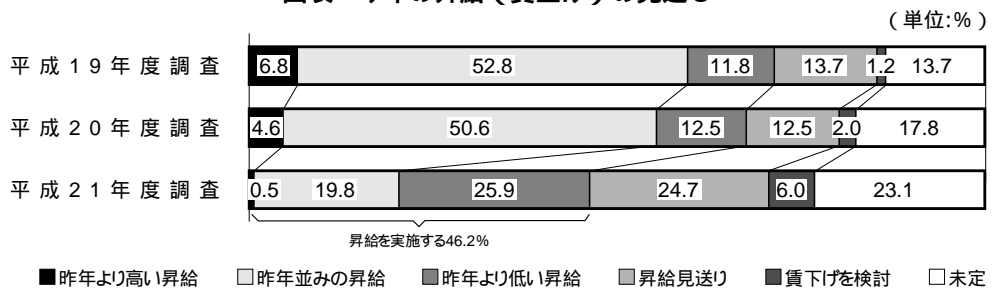
## ウォッチング

## 昇給（賃上げ）実施を決めている企業は46%

県内企業に、今年度の昇給（賃上げ）に対する方針を聞いたところ、昇給を実施する（「昨年より高い昇給」、「昨年並みの昇給」、「昨年より低い昇給」の合計）と答えた企業は46.2%となった（図表）。これは昨年同時期の調査結果（67.7%）の7割弱の水準である。

内訳をみると、「昨年より高い昇給」を予定している企業はわずか0.5%（前回調査比 4.1ポイント）、「昨年並みの昇給」を予定している企業は19.8%（同 30.8ポイント）、「昨年より低い昇給」とする企業は25.9%（同 +13.4ポイント）と、前年水準以下の昇給幅とする企業が過半を占めた。一方、「昇給見送り」の企業は24.7%（同 +12.2ポイント）、「賃下げを検討」している企業は6.0%（同 +4.0ポイント）となっており、景気減退を反映して雇用者の所得環境も厳しい状況になっている。

図表 今年の昇給（賃上げ）の見通し



調査要領：調査時点平成21年3月、調査対象企業数189社、回答社数182社、有効回答率96.3%

